2020 年 1 月 24 日

会 社 名　株式会社インターアクション
代表者名　代表取締役会長兼社長　木地　英雄
（コード番号　　7725　東証第一部）

アナリスト・機関投資家向け決算説明会を開催いたしました

当社は、2020 年 1 月 17 日(金)にアナリスト・機関投資家の皆様向けとして、2020 年 5 月期第２四半期決算説明会を開催いたしました。

〈2020 年 1 月 17 日（金）10：00～11：00〉

１．2020 年 5 月期第 2 四半期業績サマリーについてのご説明
（代表取締役会長兼社長　木地　英雄）

２．2020 年 5 月期第 2 四半期決算詳細についてのご説明　（代表取締役副社長　木地　伸雄）

３．2020 年 5 月期通期連結業績予想についてのご説明　（代表取締役副社長　木地　伸雄）

４．今後の事業展開についてのご説明（代表取締役副社長　木地　伸雄）

５．質疑応答

ご説明内容及び質疑応答内容に関しましては、以下に添付しております資料をご参照下さい。

以上

お問い合わせ先：
株式会社インターアクション　経営管理部　経営管理課　IR 担当　宛
TEL 045-263-9220　メール：ir@inter-action.co.jp

株式会社インターアクション　2020年5月期（第28期）
第２四半期　決算説明会

2020年1月17日（金）

目次

1. 上半期業績サマリー
2. 2020年５月期第２四半期　決算詳細
   ① IoT関連事業
   ② 環境エネルギー事業
   ③ インダストリー4.0推進事業
   ④ 連結貸借対照表・連結損益計算書
   ⑤ 連結キャッシュ・フロー計算書
   ⑥ 受注高・売上高・受注残高
3. 2020年５月期　通期連結業績予想
4. 今後の事業展開

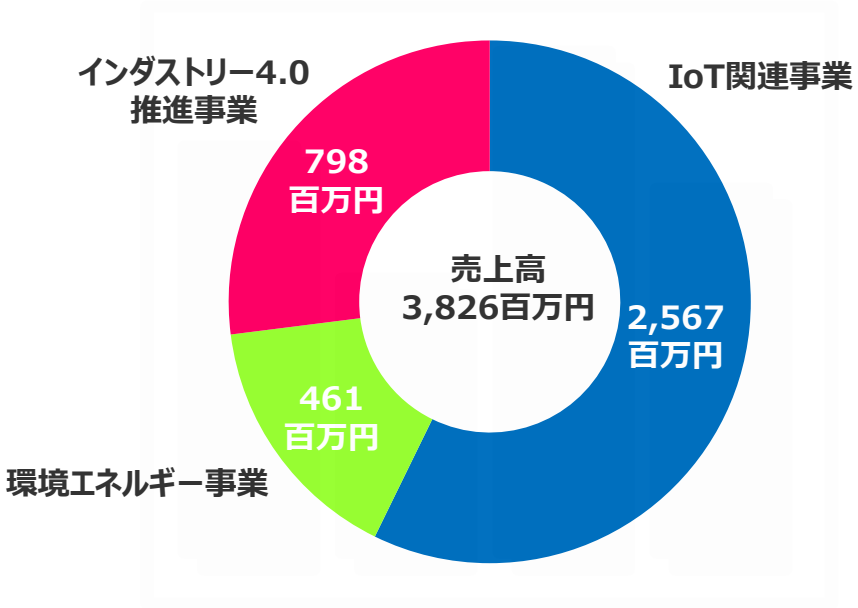
appendix　- 会社紹介 -

Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

１．上半期業績サマリー

Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

上半期業績サマリー



（百万円）	前第2四半期	当第2四半期	前年比増減率
売上高	3,834	3,826	△0.2%
営業利益	863	915	6.0%
経常利益	843	916	8.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益	560	605	8.1%
1株当たり四半期純利益	58.97円	55.45円	-

- IoT関連事業セグメントのイメージセンサ向け光源装置及び瞳モジュールは前年比で増収増益となり、好調を維持。
  第2四半期末時点で受注残は減っているものの、顧客の発注タイミングの波によるものと認識しており、依然、設備投資への意欲は高いと感じている。
- 環境エネルギー事業セグメント及びインダストリー4.0推進事業セグメントは、景気の低迷により設備投資意欲が低調に推移したことが影響し、売上高、利益ともに低調な推移となった。

Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

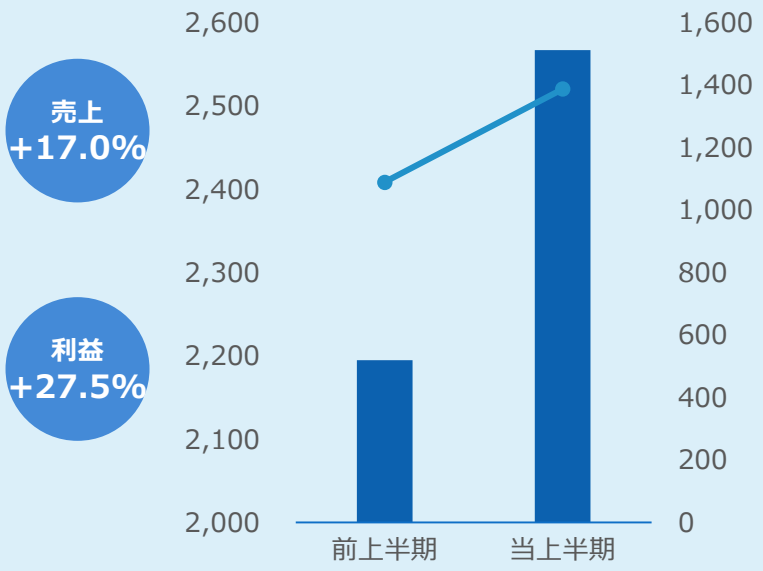
2. 2020年５月期第２四半期　決算詳細

Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

① IoT関連事業

- 前年比で増収増益となり、イメージセンサ向け光源装置及び瞳モジュールの好調な推移は変わらないものの、受注残は減少傾向。
- 顧客側における直近の設備投資のペースは不透明な状況ではあるものの、潜在的な設備投資需要は大きいと予想。

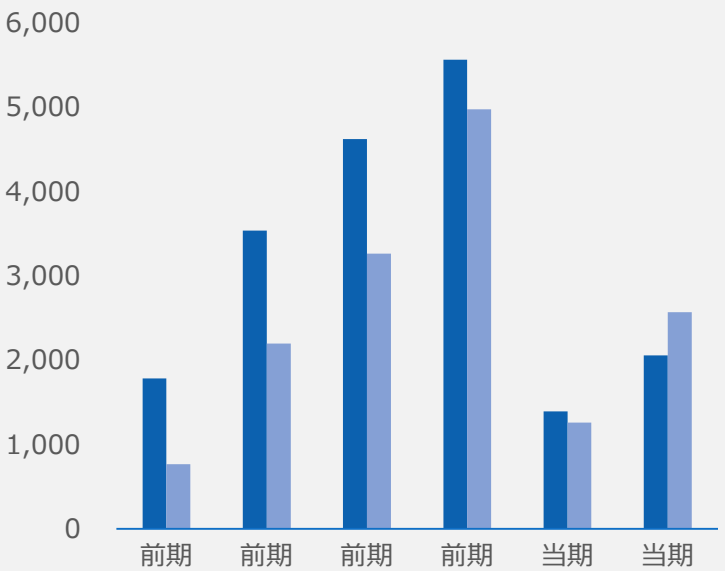
売上高・セグメント利益　前年比



	前上半期	当上半期
売上	2,195	2,567
セグメント利益	1,089	1,388

単位：百万円

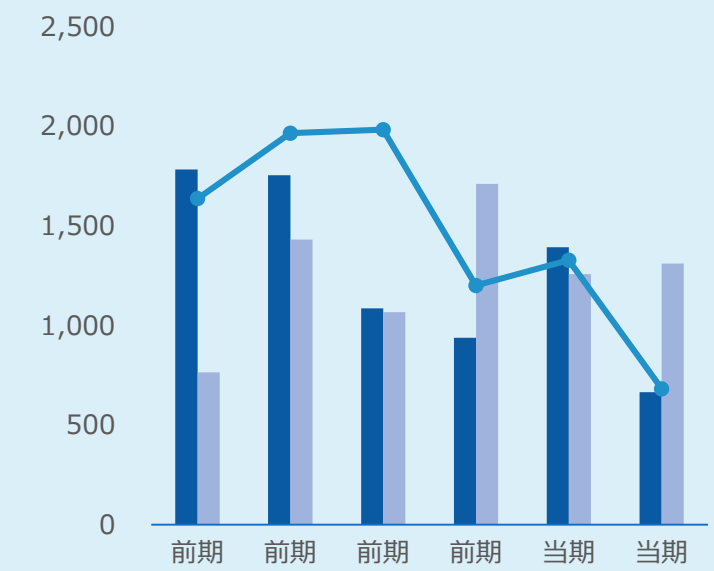
受注高・売上高推移 (累計)



	前期 1Q	前期 2Q	前期 3Q	前期 4Q	当期 1Q	当期 2Q
受注高	1,781	3,535	4,621	5,559	1,392	2,056
売上高	764	2,195	3,262	4,971	1,257	2,567

単位：百万円

受注高・売上高・受注残高推移(発生)



	前期 1Q	前期 2Q	前期 3Q	前期 4Q	当期 1Q	当期 2Q
受注高	1,781	1,753	1,085	938	1,392	664
売上高	764	1,430	1,066	1,709	1,257	1,309
受注残	1,635	1,963	1,981	1,199	1,326	681

単位：百万円

Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

① IoT関連事業

上半期の主要なトピックスは下記3点となりました

トピックス１：新デバイス検査に関連する装置（NIR光源装置）の売上比率向上

トピックス２：メンテナンス分野の売上比率向上

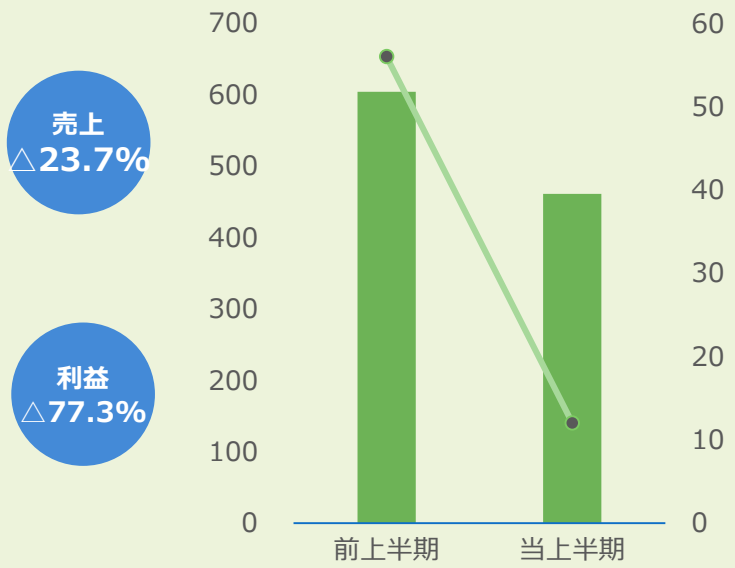
トピックス３：瞳モジュールの海外向け売上比率向上

Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

② 環境エネルギー事業

➢ 引き続き印刷業界が厳しい中、景気の低迷も重なっており、不要不急な設備投資を延期するなど、顧客の設備投資意欲が低迷。売上は低調な推移となった。

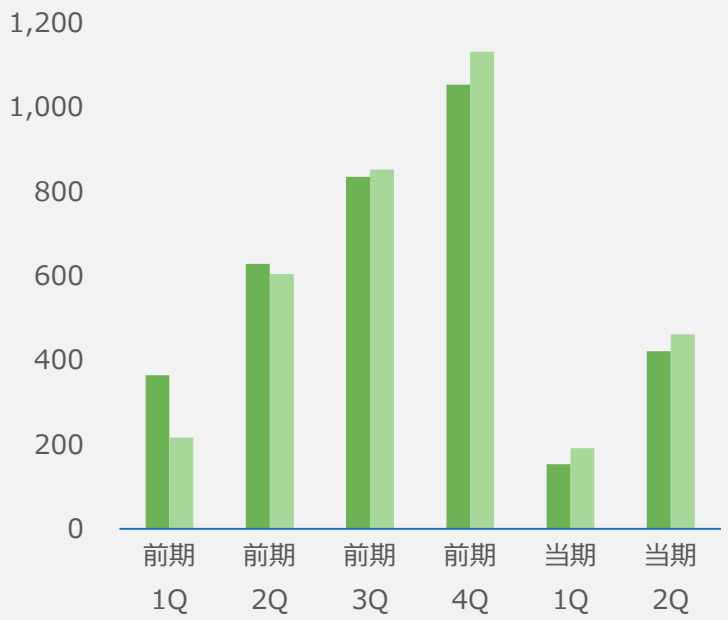
売上高・セグメント利益　前年比



	前上半期	当上半期
売上	604	461
セグメント利益	56	12

単位：百万円

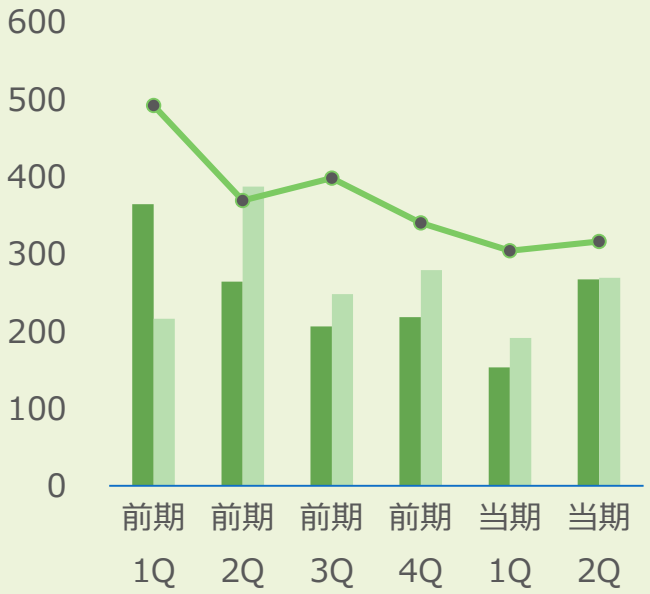
受注高・売上高推移 (累計)



	前期 1Q	前期 2Q	前期 3Q	前期 4Q	当期 1Q	当期 2Q
受注高	364	628	834	1,053	153	421
売上高	216	604	852	1,131	191	461

単位：百万円

受注高・売上高・受注残高推移(発生)



	前期 1Q	前期 2Q	前期 3Q	前期 4Q	当期 1Q	当期 2Q
受注高	364	264	206	218	153	267
売上高	216	387	248	279	191	269
受注残	492	369	398	340	304	316

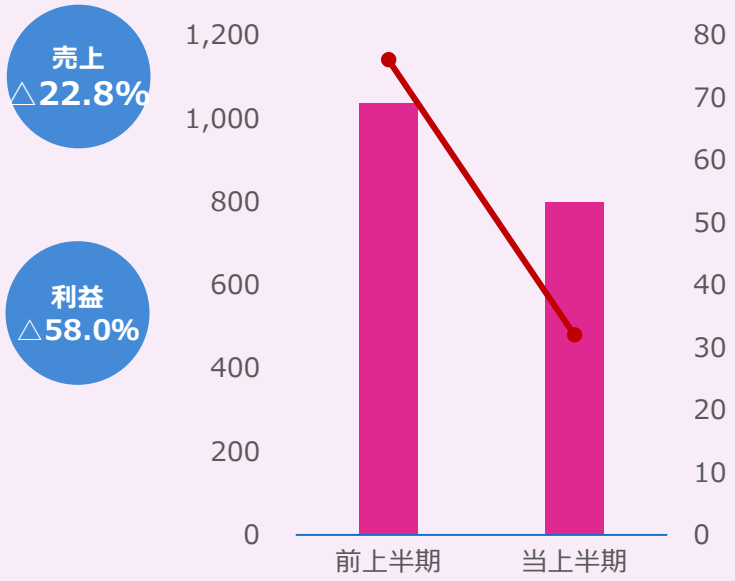
単位：百万円

Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

③ インダストリー4.0推進事業

- 精密除振装置においては海外市場での需要が引き続き落ち着いた状況となり、売上高は低調に推移したが、需要は回復傾向。
- 歯車試験機については、景気低迷に伴い設備投資意欲は低調な状況が続いているが、展示会での新たな顧客の獲得に尽力した

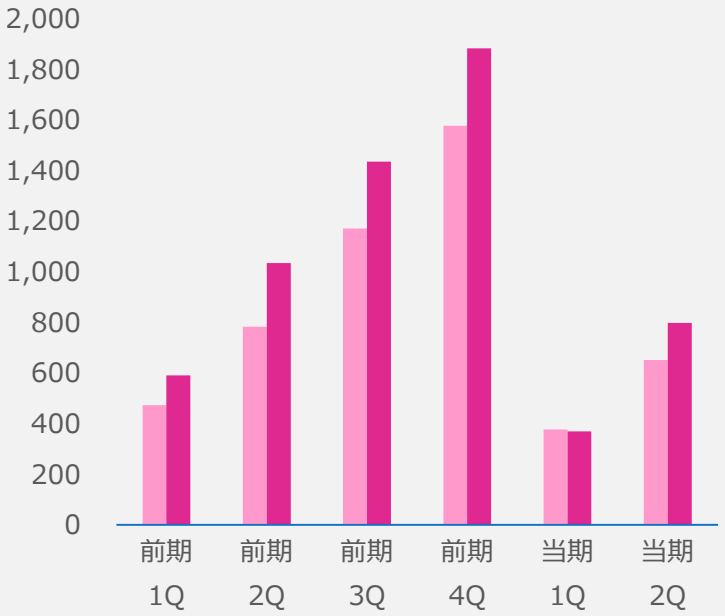
売上高・セグメント利益　前年比



	前上半期	当上半期
売上	1,034	798
セグメント利益	76	32

単位：百万円

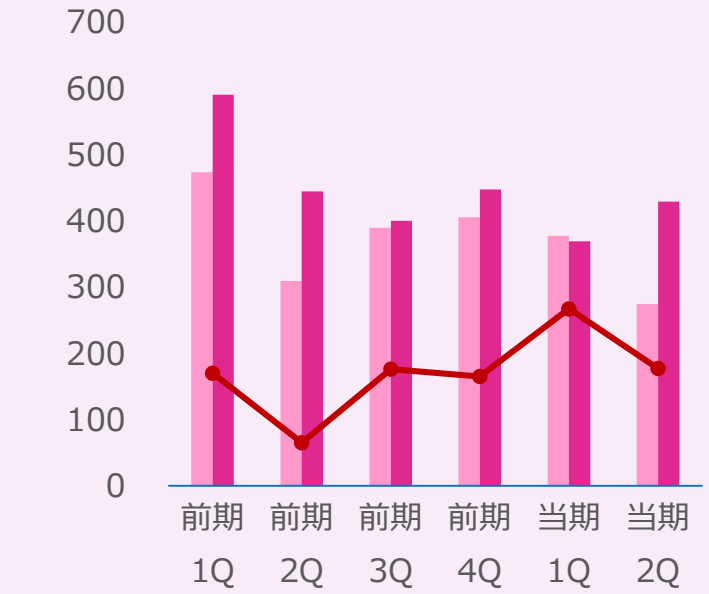
受注高・売上高推移 (累計)



	前期 1Q	前期 2Q	前期 3Q	前期 4Q	当期 1Q	当期 2Q
受注高	473	782	1,171	1,577	377	651
売上高	590	1,034	1,435	1,882	369	798

単位：百万円

受注高・売上高・受注残高推移(発生)



	前期 1Q	前期 2Q	前期 3Q	前期 4Q	当期 1Q	当期 2Q
受注高	473	309	389	405	377	274
売上高	590	444	400	447	369	429
受注残	170	65	176	165	267	177

単位：百万円

Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

④ 連結貸借対照表・連結損益計算書

連結貸借対照表

（百万円）

資産	2019年 5月期	**2020年 第2四半期**
資産 計	10,388	**9,757**
流動資産	8,911	**8,377**
固定資産	1,477	**1,379**
有形固定資産	704	**703**
無形固定資産	413	**380**
投資その他の資産	359	**295**
資産 合計	10,388	**9,757**

負債	2019年 5月期	**2020年 第2四半期**
負債 計	3,082	**2,268**
流動負債	2,360	**1,672**
固定負債	721	**595**
純資産		
純資産 計	7,306	**7,488**
株主資本	7,316	**7,508**
資本金	1,760	**1,760**
資本剰余金	2,719	**2,719**
利益剰余金	3,065	**3,471**
自己株式	△228	**△442**
その他の包括利益累計額	△9	**△19**
負債・純資産合計	10,388	**9,757**

連結損益計算書

（百万円）

実績	前第2四半期	**当第2四半期**
売上高	3,834	**3,826**
売上原価	2,011	**1,852**
売上総利益	1,822	**1,973**
販売費及び一般管理費(注)	958	**1,058**
営業利益	863	**915**
経常利益	843	**916**
特別利益	0	**－**
特別損失	3	**0**
税金等調整前四半期純利益	839	**916**
法人税、住民税及び事業税	309	**251**
法人税等調整額	△29	**59**
法人税等合計	279	**310**
四半期純利益	560	**605**
親会社株主に帰属する四半期純利益	560	**605**

(注)販売費及び一般管理費のうち主な費用

研究開発費	62	**66**
のれん償却額	26	**26**

Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

⑤ 連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動による キャッシュ・フロー 1,249百万円

（百万円）	前第2四半期	**当第2四半期**
税金等調整前四半期純利益	839	**916**
売上債権の増減額	△508	**667**
仕入債務の増減額	178	**△162**
その他の増減額	△73	**341**
小計	436	**1,762**
法人税等の支払額等	△262	**△513**
営業活動によるキャッシュ・フロー	174	**1,249**

投資活動による キャッシュ・フロー △111百万円

（百万円）	前第2四半期	**当第2四半期**
有形・無形固定資産の取得による支出	△100	**△112**
敷金の差入による支出	△6	**△2**
敷金の回収による収入	-	**3**
その他の収入・支出	0	**0**
投資活動によるキャッシュ・フロー	△107	**△111**

財務活動による キャッシュ・フロー △667百万円

（百万円）	前第2四半期	**当第2四半期**
短期及び長期借入金の純支出	△213	**△126**
社債の償還による支出	△50	**△30**
自己株式の増減額	80	**△308**
配当金の支払額	△125	**△199**
その他の増減額	△1	**△3**
財務活動によるキャッシュ・フロー	△309	**△667**

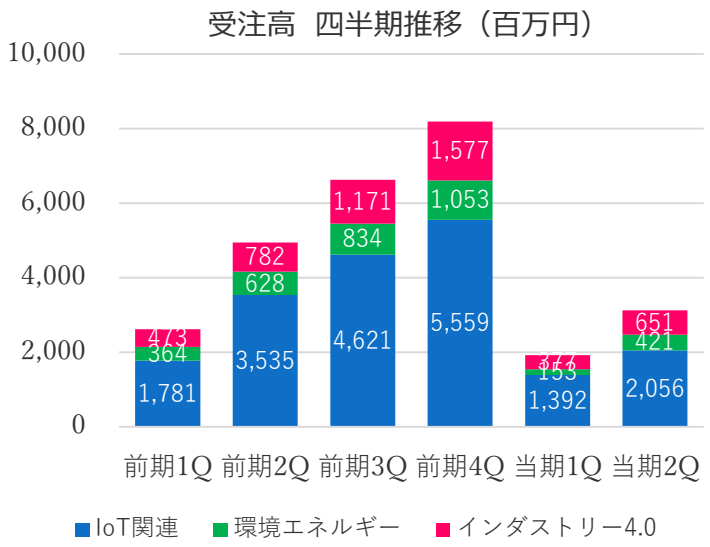
現金及び現金同等物の 四半期末残高 **5,231百万円**

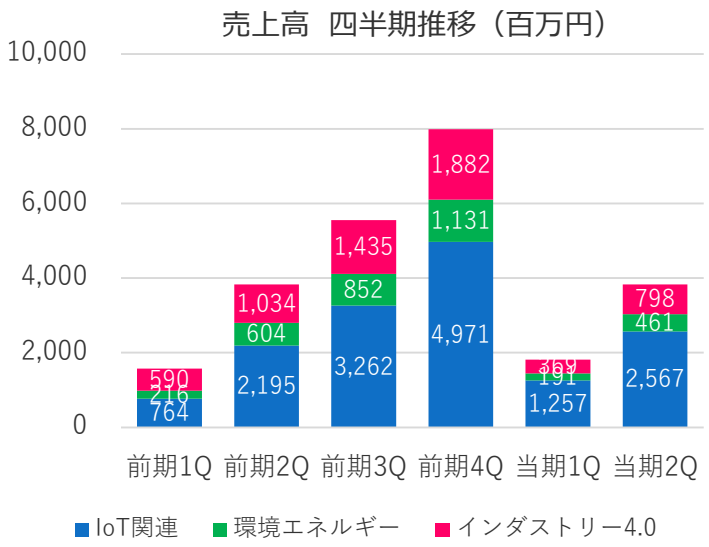
（百万円）	前第2四半期	**当第2四半期**
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	**△5**
現金及び現金同等物の増減額	△239	**464**
現金及び現金同等物の期首残高	2,220	**4,766**
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,980	**5,231**

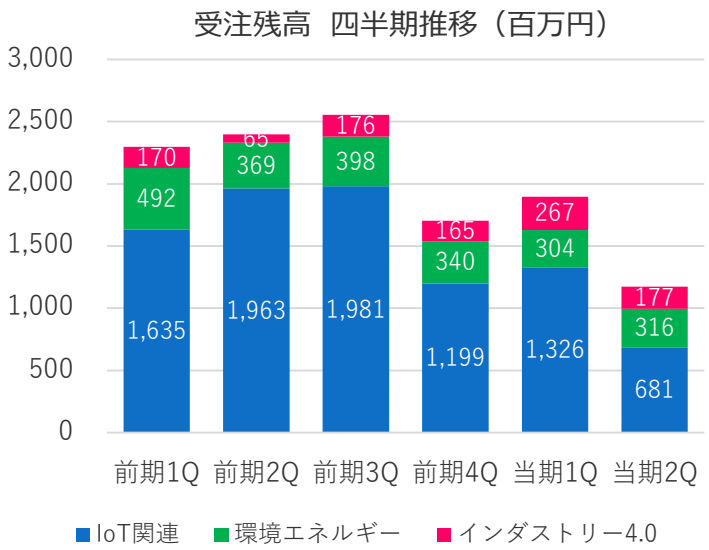
Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

⑥ 受注高・売上高・受注残高

事業セグメント	受注高		売上高		受注残高	
(百万円)	当第2四半期	前年比増減率	当第2四半期	前年比増減率	当第2四半期	前年比増減率
IoT関連事業	2,056	△41.8%	2,567	17.0%	681	△65.3%
環境エネルギー事業	421	△33.0%	461	△23.7%	316	△14.3%
インダストリー4.0推進事業	651	△16.7%	798	△22.8%	177	170.7%
合計	3,129	△36.7%	3,826	△0.2%	1,175	△51.0%





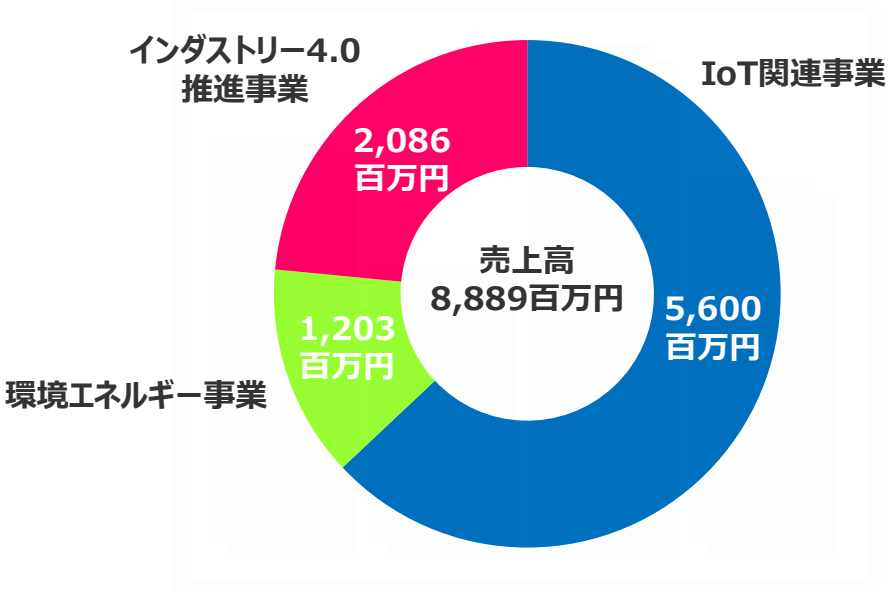


Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

3．2020年５月期　通期連結業績予想

Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

3．2020年５月期　通期連結業績予想



（百万円）	2019年 5月期実績	**2020年 5月期予想**	**前期比 増減率**
売上高	7,986	**8,889**	**11.3%**
営業利益	1,980	**2,122**	**7.2%**
経常利益	1,943	**2,109**	**8.5%**
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,386	**1,395**	**0.7%**
1株当たり当期純利益	141.13円	**126.33円**	

【IoT関連事業】

主にスマートフォンの複眼化によるイメージセンサの需要の高まりが続くと見込む。瞳モジュールの販売強化。ToFセンサー向け光源装置、車載向けイメージセンサ光源装置、車載向けLiDAR計測器の需要も徐々に高まってくる可能性があると予想しております。

【環境エネルギー事業】

引き続き、国内の新規設備投資は厳しい状況が続くと見込んでおります。従来通り輪転印刷機の経年劣化による買換え需要やメンテナンス需要を確実に取り込みつつ、中国市場向け排ガス処理装置といった海外向けの販売を強化してまいります。

【インダストリー4.0推進事業】

精密除振装置の売上高は落ち着いた状況が続く一方で、歯車試験機の売上高は海外への販売強化により堅調に推移するものと見込んでおります。

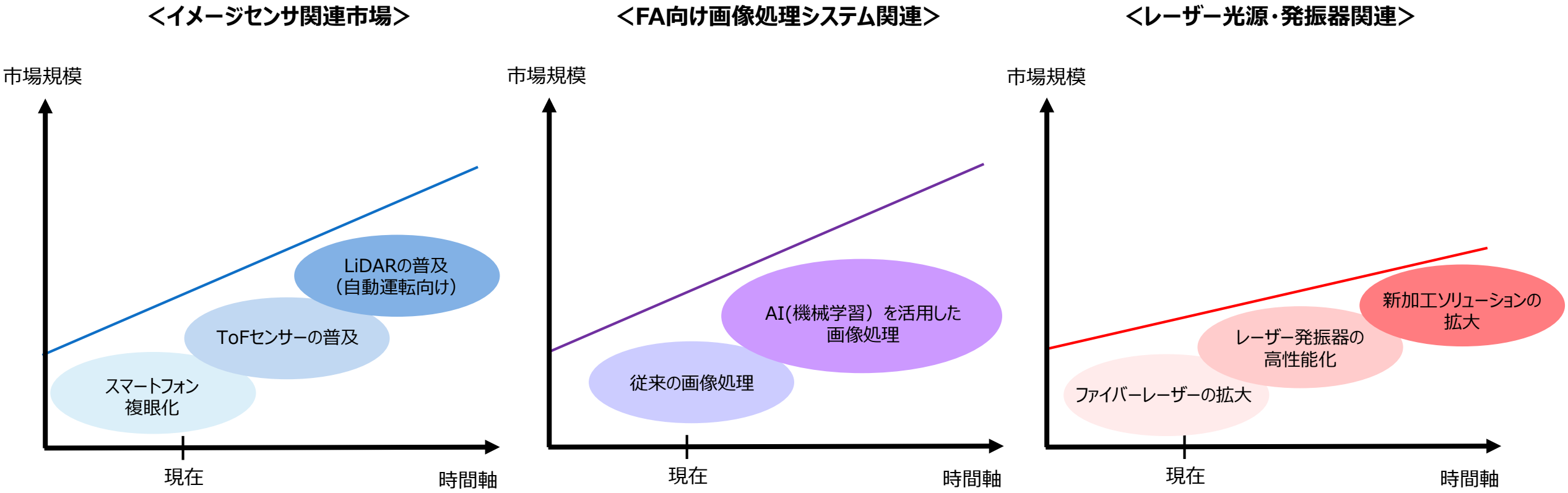
さらに、新規事業であるFA（Factory Automation）画像処理関連事業にも積極的に取り組み、早期の事業化を目指してまいります。

Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

４．今後の事業展開

Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

関連市場の拡大イメージ



【主な拡大要因】
・スマートフォンの複眼化によるイメージセンサ需要拡大
・スマートフォンへの搭載などによるToFセンサーの普及
・自動運転向けLiDARの普及

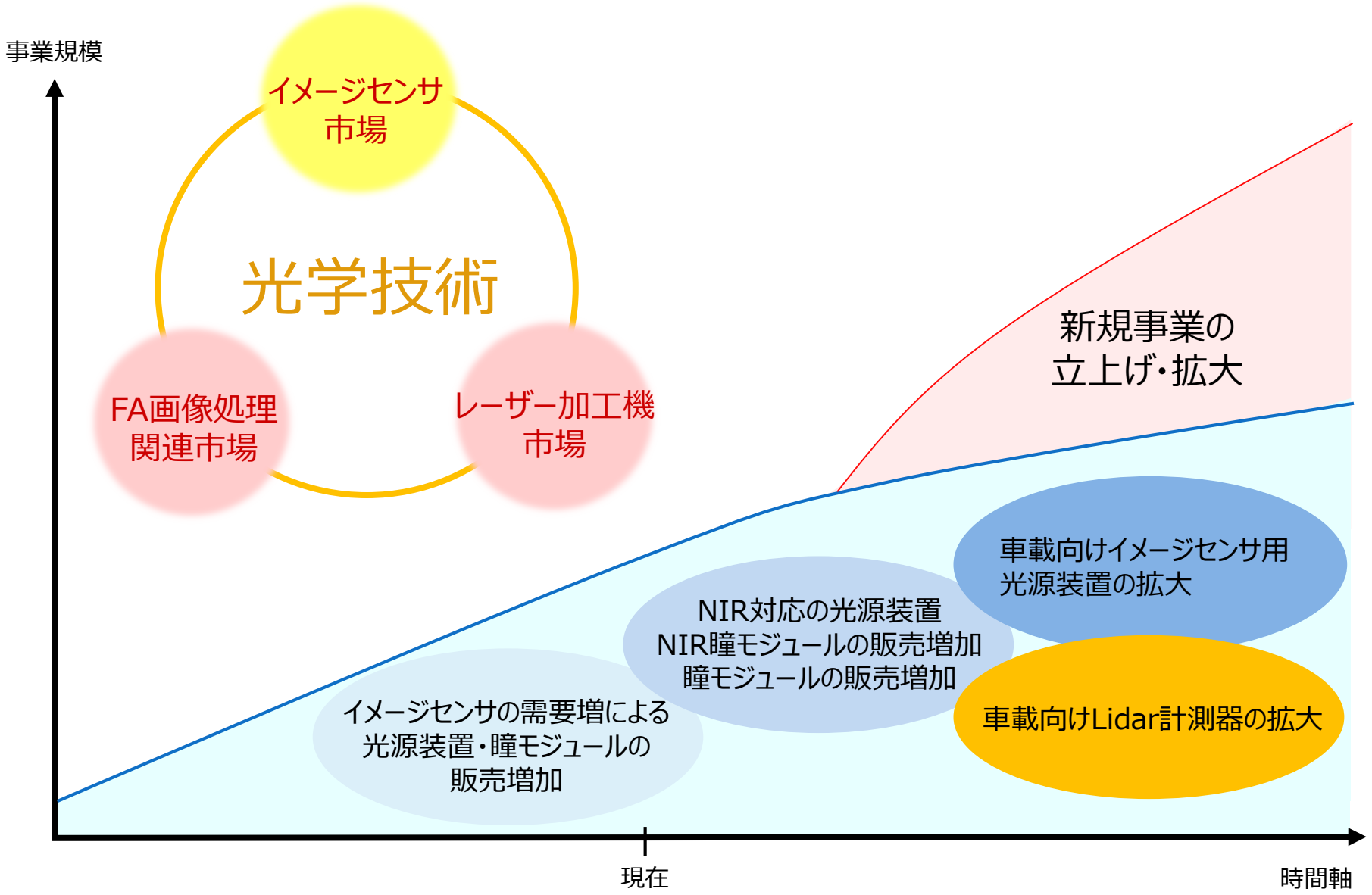
※ToF : Time of Flight
※LiDAR : Light Detection and Ranging

【主な拡大要因】
・世界的なFA需要の増加
・画像処理とAIの組み合わせの注目が高まっている
　製造分野：産業用ロボティクス
　　2015年　1,129億円
　　2020年　29,658億円
　　2030年　121,752億円

【主な拡大要因】
・ファイバーレーザー材料加工関連市場の拡大

Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

インターアクショングループの事業規模拡大イメージ



Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

新規事業の進捗について

	事業コンセプトの策定・立上げ	要素技術の確立	装置化に向けた検討	試作機の製作	事業化
FA画像処理関連					
レーザー加工機関連					

【FA画像処理関連】
・子会社東京テクニカル（歯車計測器）の顧客向けFA画像処理システムの開発。
・従来の画像処理（非AI）はクリア。
・AI（機械学習）を活用した画像処理の要素技術開発中。n数での検知に挑戦中。

【レーザー加工機関連】
・事業コンセプトの精度の向上中
・レーザー加工機を活用したビジネスモデルを構築中。

Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

注意事項

本資料に記載されている情報には、将来の業績等に関する見通しが含まれております。これらの見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づいて当社グループにより判断されたものであり、様々な潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。実際の業績等は、今後の事業領域を取り巻く経済状況、市場の動向等の影響を受けるものであり、記載された見通しと大きく異なる結果となることがあることをご承知置き下さい。

本資料で提供している情報に関しては、万全を期しておりますが、その情報の正確性及び完全性を保証するものではありません。また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がございますので、予めご了承ください。

事前の承諾なしに本資料に掲載されている内容の複製・転用等を行うことを禁止します。

Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

appendix - 会社紹介 -

Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

会社概要　Company profile

商号	株式会社インターアクション INTER ACTION Corporation	上場市場	東京証券取引所 市場第一部
設立	1992年6月25日	証券コード	7725
代表者	代表取締役会長兼社長　木地 英雄	事業年度	自6月1日　至5月31日
資本金	1,760百万円	URL	http://www.inter-action.co.jp
従業員	145名（2019年5月末時点 グループ全体）	グループ会社	株式会社エア・ガシズ・テクノス 明立精機株式会社 株式会社東京テクニカル 西安朝陽光伏科技有限公司 陜西明立精密设备有限公司 MEIRITZ KOREA CO.,LTD Taiwan Tokyo Technical Instruments Corp. TOKYO TECHNICAL INSTRUMENTS（SHANGHAI）CO.,LTD
本社所在地	神奈川県横浜市金沢区福浦1-1 横浜金沢ハイテクセンター14階 TEL:045-788-8373　FAX:045-788-8371		
事業所	横浜市中区・千葉市中央区・熊本県合志市		

Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

経営方針　Strategy

重要指標	Equity Spread ROE WACC
配当方針	総還元性向30%
M&A方針	成長分野・今後成長を見込める分野であること 培ってきた技術や事業のノウハウが、事業展開に活用できる分野であること 5年間の想定キャッシュ・フローをWACCで割り引いたNPVがプラスになること

Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

メール配信サービス

インターアクショングループに関する様々な情報をメールでお届けします

当社HP「メール配信サービス」画面
http://www.inter-action.co.jp/ir/ir_mail/
もしくは下記QRコードよりご登録下さい

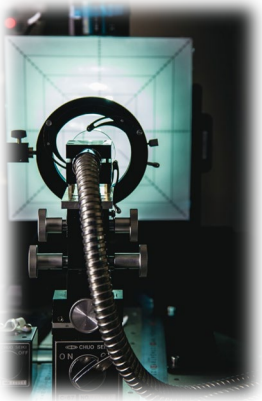
ご登録いただきました情報は、IRメール配信サービスのみに使用します。
個人情報の取り扱いにつきましては、当社ホームページに記載しております「個人情報保護方針」をご参照下さい
http://www.inter-action.co.jp/privacy/

お問い合わせ

株式会社インターアクション
経営管理部　IR担当

神奈川県横浜市中区山下町２番地　産業貿易センタービル10階
TEL：045-263-9220

http://www.inter-action.co.jp/inquiry/
HPお問い合わせ画面よりお問い合わせ下さい



Copyright © 2020 INTER ACTION CORPORATION. All rights reserved.

2020 年 1 月 17 日

質疑応答(抜粋及び補足)

質問１：スマートフォンで使用されるカメラがデュアル及びトリプルと変化する市場の動向を想定すると 28 期２Q までの受注量が少ないと感じている。主要取引先との状況について教えて欲しい。

回答１：国内のお客様との受注時期に対して一時的なズレが生じていると感じておりますが、下期に関しては受注も積みあがると予想しておりますので一時的な受注量の減少に関しては心配しておりません。

質問 2：CCD-CMOS センサーの受注の中で瞳モジュールに関してはスペックでの見極めができるのか教えて欲しい。また、来期以降の受注量はどのようになるのか教えて欲しい。

回答 2：瞳モジュールについては 8M ピクセルのローエンドのイメージセンサ向けに関しては、競合が出てくる可能性があると想定しております。当社としては、ハイスペックでの当社にしか出来ない分野で差別化を図り、お客様へ貢献していきたいと考えております。
来期以降の受注量についてはお客様の判断次第なので断定はできませんが、海外への売上比率もあがっていけば、受注量は伸びていくと考えております。

質問３：今までの説明会では競合については特に説明がなかったと思うが競合の状況について教えて欲しい。

回答３：光源装置については、お客様が 2 社購買を方針としているため、今までも常に競合は存在しております。今年度は、その 2 社購買の意向が非常に強くなっており、競合の動きは少し活発にはなっていると感じております。当社の技術力が劣っているものではなく、あくまでお客様の方針によるものだと考えております。ただ、当社のノウハウと今までの取引等を鑑みて、競合の存在はあるものの、特に心配はしておりません。

質問 4：将来の事業になるかと思うが、日本メーカーの自動運転に対するクオリティは低いと思っている。自動運転ではアメリカやドイツのクオリティが高いと言われているが、どのように考えているか教えて欲しい。

回答 4：日本メーカーの自動運転に対する技術（赤外線を使って距離を認識する技術）についてはクオリティが低いとは考えておりません。当社としては国内外にとらわれず、アメリカのイメージセンサーメーカー等ともコミュニケーションをとり、引き続きソリューション提供につなげたいと考えております。

質問５：過去にはスマートフォンは既に飽和状態で増えていかないと予想していた世論もあった中で、現在ではスマートフォンにCCD-CMOSセンサーが10数個必要となることも想定できる時代となっているが、そのような時代がきた時に、貴社において、どのような問題が想定できるのか教えて欲しい。

回答５：過去に中期事業計画で携帯にカメラが付く事や車に 20 数個のセンサーがつく時代がくると発表しましたが誰も信じませんでした。しかしそういった時代が実際、今、実現しております。想定していなかった事が起こっても状況に応じて生産メーカー様や当社の開発者から知恵が出てきて対応しております。これからも当社には、それだけの力があると自負しておりますので特に問題はないと考えております。